

令和4年度 第1回 小田原市社会教育委員会議 概要

- 1 日 時：令和4年5月19日（木）午後2時～4時
- 2 場 所：小田原市生涯学習センター本館 第2会議室
- 3 委 員：木村議長、笹井副議長、有賀委員、金子委員、齊藤委員、高橋大明委員、高橋正則委員、中島委員、野坂委員、深野委員、箕輪委員
- 4 職 員：柳下教育長、鈴木文化部長、小澤文化部副部長、山下子ども若者部長、吉野子ども若者部副部長、田村生涯学習課長、湯浅文化財課長、佐次図書館長、澤地スポーツ課長、濱野青少年課長、蓑宮生涯学習課副課長、藤澤生涯学習課副課長、遠藤生涯学習課副課長、藤平生涯学習課主査、林生涯学習課主事
- 5 傍聴者：なし

6 概 要

1 委嘱状交付

高橋大明氏、中島正視氏、野坂正徑氏へ、教育長から委嘱状を交付した。

2 教育長挨拶

柳下教育長から挨拶をした。

3 委員紹介及び職員紹介

出席委員及び職員から、簡単な自己紹介を行った。

4 報告事項

（1）附属機関への委員の推薦について

資料3に沿って、生涯学習課長から説明。

（質問等なし）

（2）令和4年度主要な社会教育事業の予定について

資料2に沿って、生涯学習課、文化財課、図書館、スポーツ課、青少年課から説明。

【深野委員】8番目の「特別展開催事業」の内容を伺いたい。

【生涯学習課長】県の重要文化財となっている中里遺跡に関する展示及び講演会を予定している。

【木村議長】今年はコロナが収束することは多分ないので、各課も大変だが、知恵を絞りながら、なるべく事業の中止は避けて、人数を絞って少数でもいいので継続して、つなげていってもらいたいと思う。

【箕輪委員】今、地区の子供会が規模の縮小や解散となってしまうところが増えている。21番の地域体験学習事業の取り組みは、新たな切り口として子どもたちを中心とした地域のつながり、歴史の立場や様々な学び等が深まるのではないかと感じた事業だったので、これが少しずつ動き出すと、地域の活性化につながっていくかもしれないという印象を持った。

【齊藤委員】地域の体験学習は、子どもだけでなく若い学生たちも体験をしたがっていて、ニーズが高いと思う。小田原で子どもたちと大学生が絡むような仕組みができると良いと

思った。

20 番の非日常型体験学習事業について、どういう人たちがサポーターになるのか、誰が主軸になって動いていくのか、参考までに教えていただけるとありがたい。

【青少年課長】サポーターの募集については、今度の説明会を経て決定するところである。現在、応募されているのは、ジュニアリーダーズクラブに所属している小学生・中学生、またそこを卒業したユースリーダーズクラブという 30 代くらいまでの青年層、加えて、小田原自然学校という指導者養成事業に関わっている方たちとなっている。

【齊藤委員】このような事業の参加者は、とても熱心な親の子どもたちだけが申し込む傾向があるので、学校教育との連携も踏まえて、事業開催の周知が広く行き届くとよいと思う。

6 協議事項

社会教育委員会議研究報告書案について

資料 5-1, 5-2 に沿って、生涯学習課長から説明。

【木村議長】今回が今期最後の会議となる。各委員からの意見を基に事務局で修正をした最終的な報告書案についてご意見、協議をいただきたい。

【有賀委員】1 頁の「はじめに」の 2 段落目、「本市第 1 号の地区公民館建設から」の後の「70」の前後の隙間（スペース）が気になった。また、9 頁の上から 4 行目「地区公民館には」から「望ましい。」までの文章の中で、「それぞれの」という言葉が 4 か所出てくるので、整理した方がよいと思う。

【生涯学習課長】調整する。

【深野委員】「アイデアの実施主体者が誰か、自治会役員の研修などの支援策はどうしていくのか」という意見に対して、資料 5-1 の太枠の下に対応内容が書かれているが、報告書案の 9 頁の 5 の「地区公民館への支援」の「(1) 公民館活動の中心となる人を育てる」の中で、サポートやコーディネートを行う人を育てるのが大事だと書いてあるが、10 頁の「(3) 生涯学習センターが担う支援」では、人を育てることが明確には書かれていない気がする。ここは、生涯学習センターが公民館協議会と連携して、そのようなコーディネーターやサポートする人たちを育てていくことに取り組むというようなことが書かれていると、5-（1）と（3）の内容がよりつながってくると思う。

【蓑宮副課長】ご意見のあった「公民館活動の担い手」については、現在は自治会役員が主な担い手となっているが、今後、自治会役員のみではなく、様々な活動を通じて、その活動の利用者が担い手になっていくような支援を生涯学習課の事業の中で配慮していくことが必要であると考えている。5-（3）の表現については、そのような内容を入れて調整したいと思う。

【木村議長】自治会でさえ、なかなか後継者が育ってこない。どこでも同様だと思うが、高齢の会長・役員が多くなってきている現状がある。移住者に期待するところもあるが、実際には、なかなか地域に飛び込めない人が多いと思う。その辺をこれから行政と地域、

団体と皆で話し合っていく必要があると思う。最終的にこの報告書は地区公民館に置いたり、地区公民館を利用する人にも見てもらいながら、これを一つのたたき台として活動してくれると非常にありがたいと思う。

【齊藤委員】この報告書については、現状も今後のことも書いてあり、でも実際に課題があるという流れが非常に枠組みとしても面白かった。すごくいい形で書かれていたので、これに対しての追記や加筆はない。その上で「これをどう運用するか」ということが大切かと思う。実際に運用するときに、私は、7頁のイの「地域外の利用者拡大」に注目している。

地区公民館 128 館が、どこにあるのかを調べる時に、どのホームページを見れば、その地区公民館のマップがあるのか、実際に利用したい、交渉したい時に誰にどう連絡したらいいのか、というところから始まる。

地域外の利用者の受け入れ可能なところをモデル化してみる。例えば「128 館の内 3 館だけ、またはこのエリアだけ、地域外の利用者拡大について、やってみようか」というモデル事業的に行う方法もあるかと思う。

お母さんたちが集まって、子どもたちを広場で遊ばせたいとか、月に一回か二回、子供食堂をやりたい、学習支援もやりたいと思った時に活用できるような、開かれたところなど、スポットでモデル的な形で見える化していくことこそ、突破する一つの道かと思う。

【木村議長】公民館の設置状況等それぞれの地域によっても違うが、どうしても自分たち自治会員がお金を出して作って現在も運営をしているという既成概念がある。新しいことをするには、それをいかに打破して行くのか、その辺が非常に難しい。

「誰でも、もっと自由に」と言っても、実際は鍵のことをはじめ、いろいろな問題が出てきてしまうが、研究報告は非常によくまとまっているので、今、公民館を利用している人たちにも見てもらいながら、少しずつでも改革ができれば一番いいと思う。

【深野委員】要は、社会教育委員会議で作ったこの研究報告は、一体誰のためのものなんだと言う気がする。これは市の方が政策を考える時の参考にしてほしいということであれば、ここに書かれていることは、市が主体性を持って取り組んでくれればいい。だが、今の話からすれば、市の職員が働きかけても「(地区公民館は)自治会のものなので…」と拒まれてしまうかもしれない。では、実際に自治会が主体性を持って取り組んでくれるのかというと、これはなかなか難しいということになってしまう。そうするとこの研究報告は、なんのために誰のために作ったのかという話になってしまう。

【木村議長】公民館長は自治会長など役員を終えた者がやることが多い。だから、この報告書は、公民館と自治会とが話す一つの材料にしたいと思う。これを一つのたたき台にして、ちょっと考えていかないといけないと思う。

【深野委員】私も意見書で、役員自身の動機付けが必要と言うことを書いた。自治会の中で、この研究報告書をテキストにして勉強会を是非、やってほしいと思う。これを読んでいただくだけで結構動機付けになると思う。また、そういう機会を市役所、自治会、公民館連絡協議会等で設けて、スイッチの切り替えをすることから始めないと、結局誰もやらずに終わ리と言うことになりかねないという気がする。

【高橋正則委員】自治会や公民館の役員で協議するとしても、128 館全てが行うかどうかは分からない。これを少なくとも公民館長一人に配ったとしても、公民館の役員会をやった時の資料になるかという、ならないのではないかと。報告書を配るときに、モデル地区として手を挙げてくれるか等の質問項目も含めたアンケートを取るのも一つの方法ではないか。

【金子委員】うちの公民館では、自治会の役員が公民館の館長をすることになっていて、今は、私が自治会長兼公民館長で、鍵の管理や掃除もしている状況。今、公民館はコロナの影響もあり、かなり利用枠に空きがある。空いているところを使ってもらうのは構わないが、急に地域外の団体が来て、何台も駐車して、何かやる…といっても、地域の理解は得られないかと思う。事前にこういう目的で、こういう団体が来て、地域の助けになって、お互いにメリットがあるということが分かれば、納得できる範囲だと思う。

【深野委員】笹井副議長から以前、松本市の公民館の事例紹介があったと思うが、松本市の公民館の活動の中では、今ここで挙げているようなキーマンとか、活用の仕方とか、人を育成するとか、その辺りはどのようにしているのか教えていただきたい。

【笹井副議長】市が作っている条例公民館が 50 ちょっと、もう一つ、自治会が作っている町内公民館が 350 ぐらいある。町内公民館ごとに使いかたが違うが、3 分の 2 くらいは活発に使われている。ある町内公民館では、地域の高齢者の人たちの弁当作りをやっている。地域の高齢者の人たちも、携帯のストラップを作って売るなど、公立の公民館ではできない、地区の公民館という有利な点を活かした活動をしている。公立の公民館ではできないことをやるのがとても大事で、遊びの要素や、飲食の要素が入っていることがとても大事だと思う。食べて交流するということは、どの世代にとっても楽しいので、そういうような仕掛けを、イベントの中に入れ込んでやるのがとても大事かと思う。それから、この報告書、個人的にはもう少し簡略化した分かりやすいメニューみたいなものを作って、それで各自治会、地区公民館の関係者等で打ち合わせ、議論するということが大切。人のつながりの必要性というものをよく理解した上で、地区公民館を活用してもらってもよいと思う。

【高橋大明委員】今回、初めての会議参加で、地区公民館に関することを十分に理解できていないが、自分の地域の公民館は、住まいのすぐ近くにあり、年に何回か自治会の行事等で大人や子どもが利用している。小学生など子どもの立場で考えると、公民館の前の公園で、毎日集まって遊んでいるのは承知しているが、子どもたちが日常的に公民館を活用する機会はあまりないかと思う。例えば、思い付きではあるが、今休止状態になっている「放課後子ども教室」を地区公民館で行うのは一案かと思った。

【中島委員】石橋では、鈴廣の店舗の下に綺麗な公民館があって、会議やカラオケ教室などに使われている。報告書の 4、5 ページに「求められる役割」とあるが、地域の人たちはその必要性をあんまり感じていないのではないかと。その役割を提言するのであれば、子どもの居場所づくりや、地域外の方も含め様々な方が使ってくれる、そのことの良さをアピールするモデル事業ができれば良いと思った。報告書を読んで実践してもらうのに、これらを実証する必要があるのかと思った。

- 【野坂委員】地域外の人を受け入れも良いが、まずは中から活性化させるところから始めるのが先なのかもしれないと思った。地元の自治会の様子を見ると、会長がかなり仕事を背負い込んでやっているので、こういうやり方があるというモデルを作って、実際のやり方を示した方がより取り組みやすいかと思う。児童相談所としては、子供食堂等の場所として地域の中で活用されると、子どもたちの居場所づくりになるかと思った。
- 【笹井副議長】全国には、地区公民館のような自治公民館を上手く使っている事例があるので、一つのサンプルとして、小田原に合っていると思われるものをピックアップした参考資料をつけるのも良いと思う。
- 【木村議長】これまでの協議をまとめた報告書なので、地域には是非、活用してもらいたいが、コロナで人集めもできなかった状況が、ようやく少しずつ動き始めたばかりで、すぐにここに書かれた内容に取り組むのは難しいと思う。しかし、地区公民館の活性化のためには、連合会長らが率先して動きださないと、その先に続いていけないと思う。
- 【深野委員】報告書の中でも、自治会で回覧板を作る事例が紹介されているが、そのきっかけは、ある人の「自分たちで作ろう」という一言だったと聞いた。今回のこの話も同じで、「公民館、少しでもまずなんかやってみよう」ということを誰が言い出すか。どこかの公民館が手を挙げて、そこから広がっていけばいいのだけれど…と思う。
- 【木村議長】広告収入を得て回覧板を作ったのは、行政から自治会への補助金が今後減少してくることを考えて、「だったら自分たちで回覧板作ろう」ということで始めた。自分たちで地域のお店に協力をお願いして回った。一度、軌道に乗り出すと仲間を引っ張り込んで結構やってくれた。だから、誰かが先陣を切って動き出せば何とかできるのではないかと思う。
- 【有賀委員】この報告書の活用の仕方、資料5-1の意見の最後にあるように、実際に子育て世代の方々に気軽に手に取って読んでもらうことは、とても大事かと思う。具体的には、どのような場面で、どのようにして報告書を手に取ってもらうような工夫があるのか。
- 【蓑宮副課長】報告書を子育て世代の方々がすぐに読むことは難しいとは思いますが、まずは公民館大会などの機会を得て、自治会の方々へ内容の周知を行い、徐々に浸透させていくような形で、子育て世代も取り込んでいくのが理想かと考えている。現時点では、すぐに子育て世代へ届く具体的な手段は見えていない。
- 【有賀委員】報告書はやや堅いイメージで、手に取りにくい雰囲気もあるので、カラーの概要版など、誰でもすぐに手に取りやすいものを作って公民館に置けば、子育て世代でも、気軽に手にすることができるといった。総合計画の子ども用概要版のような簡単に見ることができるようなものなら、より多くの人に報告書が届くと思う。
- 【笹井副議長】有賀委員のご発言のとおり、ちょっとおしゃれな概要版を作って、市のホームページに載せてもらうだけでも目に留まるかもしれない。それをカラー印刷して配架しておくのも良いと思う。
- 【箕輪委員】市内128ある地区公民館は全て異なり、その地域の困りごとそれぞれ違うと思う。その中で、各地域の具体的な問題解決のアイデアとして、鍵の問題をキーボックスの設置で解決するという事例を、この報告書で共有されれば、他地域でも同様の鍵問題

の解決だけでなく、そこから若い世代の利用につながる等、解決の実績が広がる可能性もあるかと思う。

運営資金が困らず利用者が多い公民館もあれば、そうでないところもあると思うが、話が出ていたモデルケースも、地域に応じたいろいろなパターンのモデルケースを打ち出せると、大きな起爆剤になるのではないかと思った。そうすれば、それぞれの地域の特性も出てきて面白いのではないかと思う。また、公民館の事例を共有し、どうやったら収入資源に変わっていくかその仕組みを考えるのも重要かと思った。

【木村議長】 年1回、地域の公民館が集う公民館大会があることだし、それぞれの公民館活動について情報共有することは重要だと思う。その上で、今回こうしてまとめた報告書を活かす意味で、皆で少しずつでも改善点を話し合っ、公民館を上手く回転させながら地域の活性化につなげていかなければならないと思う。

今期の協議は今回で終了となる。皆さんのご協力で報告書をまとめることができた。感謝申し上げる。

【生涯学習課長】 委員の皆さんのお陰で、これからの公民館を考える上での解決のヒント、アイデアが詰まった報告書ができたので、これを活かすためにも、より良い周知を図っていきたいと思っている。研究報告書については、教育委員会定例教育委員会の6月定例会にて報告する予定である。

【事務局】 本日の会議をもって、今期の社会教育委員会議は終了となる。新たな任期は8月からスタートとなる。各委員、推薦をもらう各団体には、次期について改めて相談する。新たな任期での最初の会議は8月を予定している。

【木村議長】 それでは、これにて会議を終了する。